

『福音の真髄』 エペソ人への手紙1章1～2節 2015.8.2(主日礼拝説教より)

『私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。』

エペソ人への手紙 1章2節

パウロは『神のみこころによるキリスト・イエスの使徒パウロから…(エペソ 1;1)』と自己紹介。「神の御心」とは第一に、絶対主権者である神の御計画のこと。天地創造、御子を信じる者を救うこと…等々、誰に相談もなく、何にも邪魔されず、必ず現実となる。第二に御心とは神の期待のこと。『神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます(1テモテ 2:4)』の実現は、それを聞いた人に大きく委ねられる。どんなに神が願っても、人がその期待に答えず、御心と知りつつも裏切ることがある。神は私たちに自由意思を与え、自分の意志で決断して従うことを願い喜ばれる。人が神を(人を)裏切ることが出来るからこそ、裏切らなかった時にその思い(愛)が本物だとわかるもの！◆パウロが使徒として選ばれた御心は前者であり、彼が立つ前からの神の御計画だった。しかし彼は、その御計画により自分が生まれ、しかも使徒として選ばれたことを自覚し感謝した。私たちも一人の例外もなく、神の御意志により生まれ、一人一人に特別な役割が与えられた。『御心(セラマ)』とは「喜んで」の意。創り主は、あなたを喜び、愛し、大切にされる！「これは御心？」と迷う時、この神の愛を思い出し、御顔を仰いで安心できれば進めば良い。◆『恵み(カリス)』とは、「好意、親切、思いやり、賜物」等の意。『恵みがあるように(2節)』とは「あなたに神の特別な好意が寄せられ、その親切・優しさが贈物として届きますように」との祈り。『平安(エイレネ-)』とは、ヘブル語の「シャロム(和解、安心、救い、繁栄、勝利…)」のこと。「あなたの魂に安心があり、あらゆる困難、悩みの中に救いがあり、勝利がありますように」との願い。◆この世の初めも終わりも、あなたの人生も神の一方的なご計画。しかし「すべての人が神の愛を知り、恵みと平安に守られ、自分の生涯を喜び全うできるか」は、神の子であるあなたに責任がある。『恵みと平安！私もいただいたよ、あなたもどうぞ！』と差し出す者となりたい！